

江戸を見守り続けた 秋葉神社(東京都墨田区向島)

正応2年(1289年)の創建で、千代世稲荷大明神が祀られています。祀られている祭神は、火産靈命(ほむすびのみこと)と宇迦之御魂命(うかのみたまのみこと)の二柱です。江戸時代の初め、善財という徳の高い僧侶がこの地に小屋を建て、数年間の厳しい修行の後、秋葉大明神の神影を彫り社殿に納めました。元禄になると、修験者の千葉葉栄が、当時この神社を管理していた農民・岩田興右衛門から土地を譲り受けました。元禄15年(1702年)には、元・寺社奉行の上州沼田城主本田正永の寄進により、秋葉稲荷両社と改称して社殿を建てるとともに、別当寺満願寺ができました。

東京大空襲後は境内地の大幅変更を余儀なくされ、氏子と呼ばれる町内会は1町会となりましたが、11月に行われる鎮火祭は地域を超えて行う祭典となっています。年間数千人程度の参拝者があり、特に正月や11月に多くなります。秋葉山本宮は「あきは」と読みますが、秋葉原との関係からこちらの神社は「あきば」と呼ばれることもあります。秋葉山本宮の参道にもある「三尺坊大権現」という天狗の像があり、戦後焼失したと思われていましたが、あるとき地中から見つかりました。現在は前立ちとして内陣に祀られており、鎮火祭の日には拝観できるようになっています。主な年間行事には、元日祭、千代世餅つき、縁日開き、納涼踊り、秋祭り、鎮火祭お焚き上げなどがあります。(藤牧)



全国秋葉新聞

関東東海編

名前は同じだけれど、ルーツが違う? 秋葉神社(埼玉県さいたま市西区中釘)

社伝によると、駿河にあった飽波神社が遠江に分祀され、その後の天平年中(およそ1250年前)に埼玉へ伝わり、現在の秋葉神社が創建されたといわれています。秋葉山本宮と同じく遠州の地にゆかりがありますが、秋葉山本宮との直接的な関わりはありません。それにもかかわらず同じ社名がついているということは、歴史を考えるうえでとても興味深いです。

4月と12月の18日に行われる大祭や、正月の初詣には、大勢の参詣者が訪れます。また7月15日(現在は15日に近い土曜日)には祇園祭が行われ、氏子による御子舞の奉納があります。宮司さんのご自宅は敷地内(境外)にあり、家族全員で神社の管理をされています。

こちらの秋葉神社では、火之迦具土大神、天照大神、素戔鳴尊、菅原道真、市杵島姫命、日本武尊、稲倉魂命、他6柱、計13柱の神をお祀りしています。火防、盗難消除、延命長寿の神として関東一円に崇敬されています。昇殿参拝は、本殿は「八ツ棟、三手先造り」で、その四面には豪壮優美な彫刻が壁面を埋め尽くしています。末社には弁天社と稲荷社があります。(鈴木)



3年生

- 班員名
- 崎山 瑛介
- 鈴木 颯太
- 藤牧 海斗
- 渡邊 悠成

秋葉原の名前の由来 秋葉神社(東京都台東区松が谷)

まだ鉄道も通っていなかった明治2年12月、現在の秋葉原駅のある辺りで、近隣の8つの町にも及び大火災が発生しました。それ以前にも大火災は度々発生していましたが、これを機に東京府は、辺り一帯を火除地(火災の広がりを防ぐための空き地)とすることを決定しました。単に火除地といっても、現在の秋葉原駅やヨドバシカメラも含まれるほどに広大なもので、あわせてその中に「火防の御宮」を創建することになりました。こうして当時の東京府が主体となり、明治3年10月「東京一円の火災鎮護の祈願所」として新たな神社「鎮火社」が建てられました。後に鉄道や駅の設置計画のため、明治21年、神社は現在の地に移り、昭和5年には正式名称を「秋葉神社」としました。

このように、台東区の秋葉神社は秋葉山本宮から勧請されたわけではないですが、火防の神社として結果的には同じ神を祀っていることとなります。台東区の秋葉神社の神職の方や、崇敬者の方が、秋葉山本宮へ参拝にも見えます。こちらの神社は氏神(地域を治める神社)ではなく崇敬神社ですが、近隣の5町会が「鎮火講」をつくり、さまざまな年間祭事に協力しています。

参拝者は平常時で1日60~70人くらいです。また、お正月や、本格的に火を使い始める秋から初冬(10月~11月頃)にかけては参拝者が増加します。

神社を管理されている宮司さんにアンケートをお取りしたところ、日常の仕事は社殿の開閉、掃除、ご祈祷、御朱印や守札の授与、祭事の準備など多岐にわたり、基本的に休日というものはないのだそうです。こうした神職の方のご尽力や、地域の方々の協力のおかげで、神社が守られてきました。(崎山)



信長に勝利をもたらした 手力雄神社(岐阜県各務原市中那加手力町)

今から1400年前に鎮座された神社です。本殿の裏山に「御幣岩」という岩があり、左右には古墳があります。古くから、日本には自然崇拝(精霊崇拝、アニミズムとも呼ばれる)の思想があり、このような信仰の対象となった岩のことを「磐座」といいます。もともとは真幣明神として祀られていたそうです。

後に、手力雄神社として、現在的那加地区で祀られるようになりました。織田信長が戦勝祈願に来たことでも有名で、多くの宝物と伝説が伝わっています。

手力雄神社の管内にも「秋葉神社」があります。岐阜から秋葉山本宮まで参詣するのは大変な道のりであるため、秋葉山本宮に代参する目的で祀られました。正月には3万人もの参拝者が訪れ、年間では5万人ほどが訪れます。(渡邊)

